

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	○多くの生徒はルールやマナーを守って生活しようという意識を持ち学校生活を送ろうとしている。 ▲軽率な言動による、人間関係に関する問題が多くみられた。人の気持ちを考える、人権意識を育むことができるような指導を繰り返し行うことが必要である。
2 学習指導全般	○生徒の多くは、落ち着いて学習に取り組んでいる。 ○推進委員会と連携して、2分前着席、授業の始めと終わりのあいさつへの意識の改善を進めることができた。 ○自学ノート強化週間や掲示による啓発活動、学習コンテストにより、家庭学習の内容の改善や学習時間が増えた生徒が見られた。 ▲提出物が滞る生徒が一部見られる。粘り強い指導が今後も必要である。 ▲基礎・基本が身につけていない生徒に対し、個別の支援が必要である。
3 特別活動全般	○運動会や合唱コンクール等の行事では、リーダーを中心として多くの生徒が何をすべきかを考え、取り組むことができた。 ○推進委員会では、学校生活における学年や学級の課題を話し合い、改善するための企画を考え、取り組むことができた。 ▲推進の取り組みが終わると意識する生徒が少なくなっていたため、声掛けを推進だけでなく学級全体で行い、取り組みを継続していくことが必要である。

## 3 学期以降の重点指導項目

- <生活> ・自問清掃の開始など、自ら正しく判断して行動できるように学年全体で声かけを継続していく。  
・行動に課題がみられる生徒には、学年で共通理解のもと個別に支援をしていく。
- <学習> ・授業への準備と授業前挨拶の意義を徹底させ授業を大切にする意識を継続指導していく。  
・よい自学ノートの掲示と週末課題の設定により、家庭学習の習慣化と学習方法、質の向上を図る。  
・学習に関して、個別支援が必要な生徒の共通理解をはかり、現状より少しでも良くなる指導を行っていく。
- <特活> ・行事や推進企画を通してリーダーを育てるとともに、2年生になるという自覚を持たせ、集団のあり方を意識させる。

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	○運動会、合唱コンクールなどの行事を経験したことで、中堅学年としての自覚と先輩としての責任感を持つことができた。また、生徒会などの学校の顔として活躍するリーダーの育成や、リーダーに対する集団としてサポートしていく雰囲気作りにつながった。 ○学校のルールや社会のマナーを、よく意識しているという生徒の割合は増えた。 ▲軽率な言動によるトラブルが起こった。状況を正しく判断し、自分の行動に責任を持つ指導を継続的、計画的に実施していく必要がある。
2 学習指導全般	○2分前着席等は、推進委員会の企画とタイアップして取り組み、企画後も推進委員が中心となって声をかけて、意識しようとしていた。 ○自学ノート強化週間を設けることにより、その内容の改善が見られた。 ▲家庭学習時間は2時間以上、1～2時間未満の生徒が64%で、中間71%より減少した。定期テスト前には計画を立てる時間を設けて取り組んだが、普段の学習においても計画的な学習及び学習方法の確立を目指したい。学習通信や家庭学習を認めるコメント、声かけを引き続き行いたい。

3 特別活動全般	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">           学校評価より「学校が楽しい」 R 3前期 79%→後期 83%         </div> <p>○年度当初に比べ、リーダーを中心に、どの子も過ごしやすく安心でき、また集団として互いに高め合っていくことができる環境作りを意識することができた。安心できる環境が「学校が楽しい」という実感にもつながっている。</p> <p>▲リーダー会の取り組み終了後はやや意識が緩んでしまうことがあるが、粘り強い声かけをしているところは成果が現れてきている。しかし、全体が「どんな行動がいいのか自分で考えて実行する」ところには至っていない。自分で行動できるような声かけを全体にしていきたい。</p>
----------	---

3 学期以降の重点指導項目	
<p>○リーダーとそれをサポートするフォロワーが増えるように、共感的人間関係を育む学級経営を基に、質の高い学年集団を目指す。(行事、部活動、生徒会活動などで意識的に仕掛ける。)</p> <p>○自分の成長のための時間という自問清掃の意義を、学年集会・学級指導などを通し、継続的に意識付けを図る。</p> <p>○進路指導を通し、授業を大事にする姿勢と基礎学力の強化。二本立て学習に向けて、学習方法と質の向上をはかり、家庭学習の習慣を身につけさせる。</p> <p>○不登校・不登校傾向の生徒等支援を必要とする生徒に対する個別支援を、共通理解のもと学年全体で取り組む。</p>	

3 年

2 学期までの成果と課題	
1 生活指導全般	<p>○「学校のルールやマナーを意識して過ごしている」が92%と高い水準を維持できているが、若干生徒のハードルは低く感じる。「自分からあいさつをしている」が72%、「自問清掃をねらいに沿って取り組んでいる」が77%など、受け身の姿勢が見られる。</p> <p>○多くの生徒が受験生としての姿勢や行動を意識するようになり、学級や学年の雰囲気も少しずつ良い方向へと変わっていった。</p> <p>▲生徒の中から自発的に「より良い集団になろう」という行動が更にみられるとよい。</p>
2 学習指導全般	<p>○「授業はわかりやすい」という生徒の割合が82%に向上した。課題の工夫等の授業改善の成果が表れていると考えられる。</p> <p>○グループ活動等の学び合い活動に積極的に活動する姿が見られた。</p> <p>○志望校合格に向けて、授業等での課題への意欲は次第に高まり、全員で学習しようという雰囲気が出てきた。</p> <p>▲朝学習等で学習内容の復習をしている。しかし、1・2年生の学習内容の理解と定着が不十分であるため、理解が進まず、成績が伸び悩んでいる。</p>
3 特別活動全般	<p>○「生徒会活動に関心を持ち、進んで参加している。」の数値が76%と中間に比べて7%と微増した。運動会や合唱コンクールは、制限下ではあったが、主体的に活動に参加し、達成感を得られる結果であった。</p> <p>○推進委員企画「8時10分着席完了！遅刻チェック」を行った。受験生として学年全体をよりよい集団にするために課題解決に取り組んだ。朝終礼等で声をかけるなど、リーダーとして指示の仕方を工夫し、結果として、朝の授業に落ち着いて取り組める姿勢になるようになれた。</p> <p>▲「自分にはよいところがある」と感じている生徒は68%で、昨年の2年次よりは10%増加したが、まだ低い状態にある。</p>

3 学期以降の重点指導項目	
<p>&lt;生活&gt; 8:10登校、挨拶、聴く姿勢、身なりについて、継続して取り組む。</p> <p>&lt;学習&gt; 学習面での個別支援(自学や質問ができる学習環境を整える)。 受験に対応できる活用力の向上を意識した授業および3年間の総復習に取り組む。</p> <p>&lt;特活&gt; 推進委員会の取り組みを中心に、学校や友達の良さ、自分の良さに気付き、互いに認め合える場面を設けていく。</p> <p>&lt;進路&gt; 進路決定に向けて、情報の提供や相談、受験準備などを丁寧に行う。</p>	

教務部（年間評価）

成果と課題	<p><b>【重点目標】</b>・<b>【会議の有効性】</b>各種会議(分掌部会や学年会)での・意思疎通が向上。  <b>【楽しい・安心】</b>・<b>【情報発信】</b> 2・3年生は中間評価より改善した。  <b>【最終退校時刻】</b> 最終退庁時刻の意識が低下している。</p>
-------	---

3学期以降の重点項目

- 運営委員会を通じ各主任への「各種会議」の日程やその内容の確認を進め諸会議の有用性を向上する。
- 配付物の重要性を確認し、確実に保護者へ渡すよう各クラスで指導する(学年主任による学年職員間への呼びかけも行う)。
- 業務改善のため、引き続き「なくす・へらす・変える」の視点で各種取組を検証・対応する。

研究学習部（年間評価）

成果と課題	<p><b>【学習指導】</b>  ○根拠や理由をつけて説明する取り組みの成果がみられる。  ▲家庭学習については、予習・復習や学習方法について具体的な指示を出していく取り組みを継続させていく。  ▲授業規律が整いつつあるものの、生徒自身が理由や根拠を持って学習に臨むための指導や授業を振り返り、主体的に学習できる学習過程の工夫および実践が必要である。</p> <p><b>【キャリア教育】</b>  ○職業講話・ジョブカフェ訪問など自分の進路を考える機会を設定することができた。  ▲キャリアパスポートの活用について、共通理解して進める必要がある。</p> <p><b>【道徳・人権教育】</b>  ○年間指導計画を基に各学級の実情に合わせて授業を行うことができています。  ▲授業改善や評価方法に関して、継続して検討をしていく必要がある。</p> <p><b>【情報教育】</b>  ○Google classroom で教師用のクラスを作り、連絡とともに情報交換の場として利用することができています。授業実践の報告などがあがり、授業での1人1台の促進につながった。  ▲クロムブックの使用の際の校内統一のルールをまだ設定していない。</p> <p><b>【図書館教育】</b>  ○アンケートの「読書が好きである」が肯定的評価が70%で昨年度より4ポイント上昇した。  ▲開館日の減少など図書館の利用制限により、昨年度より貸出冊数は大幅に減少した。</p>
-------	---

3学期以降の重点項目

- ・認め褒める場をつくり、生徒がわかった、力がついたら実感できるような授業改善
- ・生徒自身が理由や根拠を持って学習に臨むための指導 ・主体的に学び合い学習ができる指導の工夫
- ・計画的な家庭学習の充実 ・道徳の評価に向けた振り返りシート、授業記録表の活用

特別活動部（年間評価）

成果と課題	<p><b>【生徒会】</b>  ○前期も後期も自分たちが学校を「こうしたい」という思いをもって活動できた。コロナ禍でも皆が楽しく生活するためにどうするかを考えて企画をすることができた。  ▲準備する時間が不足し、したいことを消化できないことがあったため引き続き計画的に行うことを意識したい。</p> <p><b>【委員会】</b>  ○学級討議の形態をリモート・対面両方行ったことで目的や状況に合わせて実施できるようになった。（最初は全体の顔合わせで対面、意見をはっきりはリモートなど）  ○学級討議・生徒議会両方で質問や意見などが活発に交わされるようになった。形骸化を防ぐため目的をしっかりと意識させたい。</p> <p><b>【推進委員会】</b>  ○1年・・・自分たちの課題から学年をよりよくする「いいところ見つけ」などの企画を考え、声かけを行った。企画終了後の意識の継続が課題である。  ○2年・・・自分たちで自分たちの学年をより良いものにしていこうという意識が見えた。企画の終了後の意識は緩んでしまうが、学年全体で底上げされた。  ○3年・・・遅刻チェック、行事とタイアップした取り組みを行った。どのクラスも時間の意識が高まり、朝のスタートがスムーズになるなどの効果があった。</p> <p><b>【学級活動】</b>  ○行事ごとに振り返る時間を設けることで、お互いの頑張りや良かったところなどを認め合うことができた。  ▲学級単位での振り返りだけではなく、次年度は学校単位での振り返りや頑張りや認め合う活動をしていく。</p>
-------	--

3学期以降の重点項目

- ・先輩、後輩にメッセージを送ることを通して、自他共に認め合う時間を確保する。
- ・次年度に向け、「自分にはよいところがある」のアプローチを個人単位でするのはもちろん、学校単位で「野々市中学校にはこんないいところがある！」という面からの両面で進めていく。
- ・次年度に向け「リーダーの条件」を意識する。

生徒指導部（年間評価）

成果と課題	<p><b>【生活規律】</b>          ○先生方が粘り強く指導をしてきたことが、教師の評価の上昇につながっている。          ○校則の見直しを検討する中で、生徒へのアンケートを実施し、学校の決まりについて興味・関心を持ち、自分のこととして考えることができていた。          ▲教師の評価はこれまでと比べると良くなっているが、評価はCである。生徒の中で徹底されていないこと、教師の中で指導にブレがあることが課題である。</p> <p><b>【あいさつ】</b>          ▲教師、生徒、保護者ともに満足できる程度の結果ではない。特に、教師の評価は低い。あいさつができる生徒を育てる具体的な取組が求められる。</p> <p><b>【対応・相談】</b>          ○学校で心がけているワンランク上の保護者対応もあり、保護者の評価は以前から数値を下げることなく推移している。          ▲教育相談部会をより一層充実させ、生徒の悩みや不登校に対応できる体制を作る必要がある。</p>
-------	---

3学期以降の重点項目

- 1 ルールや身なり等の指導をすべての教師がすべての生徒に対して行いその指導を最後までやり切る。
- 2 次年度に向けて、生徒会委員会等と連携したあいさつに関する取組の計画
- 3 教育相談部会の一層の充実
  - (1) 個々の不登校生徒に対するより具体的な組織的対応の検討
  - (2) 次年度に向けた、年度初めの教師と生徒の関係作りのための取組の計画